

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

事業所名 グループホームやわらぎ

日付 平成16年6月11日
特定非営利活動法人

評価機関名 高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会

LIFE SUPPORT推進グループ

評価調査員 在宅介護経験8年

在宅介護経験8年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

『一番大切な人は利用者さんです』の声が職員さんから素直に聞こえてくる。極く当たり前の事ですが、利用者と職員は、どんな働きかけもスキシブ。そして利用者から職員への働きかけと職員から利用者への働きかけが同じくらい。自然に出てくるお互いのキャッチボール。そしてみんなニコニコ楽しそう。利用者も職員もお互い友達感覚でゆったりと接している光景があちこちで見られ、ほほえましい。

「私、横になりたい」「歌を歌いたい」「ソファでゆっくりしたい」「職員さんに耳の掃除してもらっている。みんなバラバラでしたい事をしているが、各々満足そうな顔…そんな中にも職員の見守りがある。これこそ各人の自由な生活です。

こんなグループホームなら、私達も飽きずに過ごす事ができる。これが家庭生活の延長、いや新たな共同生活を見出しているのかも知れない。

こんなグループホームでも管理者と職員は現状に満足せず、職員の連帯感でより改善、より向上の意欲を燃やしている姿に敬服する。

将来模範的なグループホームになって貰いたいと祈りつつ、楽しく気兼ねない一時を過ごさせて貰った。

特に改善の余地があると思われる点

次のような提案をした

管理者と職員さんの頑張りに加えて、家族も巻き込んでホーム作りをしたらもっと良いグループホームになるでしょう。

幼稚園児や小学生とのかわいい触れ合いももっと増やしたり、このホームの精神を理解してくれる地元のボランティアの活用をしてみたらどうか。このような支援者が増えられ、相乗的に凄いパワーが生まれ、利用者の生活ももっと豊かになると思う。

建物も素晴らしい環境を備え住み心地の良いグループホームと思うが、トイレが個室にないのが少し残念に思う。排泄はケアで補っているが、これから又グループホームを作る時には是非考えて貰いたい。

I 運営理念

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 1 | 理念の具体化、実現及び共有 | | |
| 記述項目 | グループホームとしてめざしているものは何か | | |
| | 「このホームの売りは？」の問いに「利用者さんです…」と、管理者からも職員からも聞かれる。私達の機関の評価ポイントは「入居者の方を見させて貰えば殆どの事は想像出来る。」という考えで、両者の考えが全く一致した。グループホームを見て頂くのは「どうぞ利用者と職員を見て下さい」という自信と意欲の様で、きちとしたケアがなされている様子を観察すると経営者から管理者、職員の一貫した利用者への思いが目映る。 | | |

生活空間づくり

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 2 | 家庭的な共用空間作り | | |
| 3 | 入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり | | |
| 4 | 建物の外回りや空間の活用 | | |
| 5 | 場所間違い等の防止策 | | |
| 記述項目 | 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か | | |
| | 利用者の身体レベル、生活レベルに合わせて、思い思いの居場所が求められる様に、色々な居住空間が造られている。そして各々の空間を職員が見守りが出来る位置関係が保たれているので、何か気が付けば、職員がずっと寄り添える様になっている。そんなゾーンを利用者は気が向くまま移動したり、又ゆっくりと過ごすことが出来る。自分の居室も居心地良くしているが、共通部分でこの様な生活が出来るのは素晴らしい。そして昼過ぎになると玄関先に職員が作る屋外テイルームも楽しそう。 | | |

ケアサービス

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|----|---------------------------|-------|-----|
| 6 | 介護計画への入居者・家族の意見の反映 | | |
| 7 | 個別の記録 | | |
| 8 | 確実な申し送り・情報伝達 | | |
| 9 | チームケアのための会議 | | |
| 10 | 入居者一人ひとりの尊重 | | |
| 11 | 職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ | | |
| 12 | 入居者のペースの尊重 | | |
| 13 | 入居者の自己決定や希望の表出への支援 | | |
| 14 | 一人でできることへの配慮 | | |
| 15 | 入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 | | |
| 16 | 食事を楽しむことのできる支援 | | |

III ケアサービス(つづき)

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 17 | 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 | | |
| 18 | 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 | | |
| 19 | 入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援 | | |
| 20 | プライドを大切にされた整容の支援 | | |
| 21 | 安眠の支援 | | |
| 22 | 金銭管理と買い物支援 | | |
| 23 | 痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 | | |
| 24 | 身体機能の維持 | | |
| 25 | トラブルへの対応 | | |
| 26 | 口腔内の清潔保持 | | |
| 27 | 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 | | |
| 28 | 服薬の支援 | | |
| 29 | ホームに閉じこもらない生活の支援 | | |
| 30 | 家族の訪問支援 | | |
| 記述項目 | 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か | | |
| | “介護は人なり”を再認識させられた。穏やかでゆっくりとしていながら「ほうりっぱなしはないよ」といった感じの声かけや触れ合いが、見ていて心地よい。そう言う中でもプライバシーが尊重され、一人の人間としての尊厳が保たれている事の実感を得た。又一人ひとり人生履歴や性格、身体疾患経歴もよく把握して、ケアに生かしている印象が伝わる。これは管理者の方針を職員が良く理解し一丸となって「利用者さんを大切に」を言葉に、日常の生活を維持していけるチームワークの良さだと思う。 | | |

IV 運営体制

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 31 | 責任者の協働と職員の意見の反映 | | |
| 32 | 家族の意見や要望を引き出す働きかけ | | |
| 33 | 家族への日常の様子に関する情報提供 | | |
| 34 | 地域との連携と交流促進 | | |
| 35 | ホーム機能の地域への還元 | | |
| 記述項目 | サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か、 | | |
| | 利用者の楽しい生活が出来るグループホームを目指すとする管理者と職員のギャップで当初は苦労されたが、現在は経営者も現場は管理者に任せているし、管理者の人望もあり、職員も若さと情熱で利用者をケアする素晴らしい体制を作っている。今、一番の悩みは、昼間常時玄関を開放し、自由に出入り出来る環境である。街中の住宅地で自動車や人通りのある道に面していて危ないので、施錠をという経営者の意向も、「今まで通りの状態を続けるにはどうしたら良いか」職員が話し合い、葛藤が続いている。「何とか乗り切ろう」とする粘りと情熱に敬意を表す。「安全」「自由な生活」という矛盾をどのように解決したか次回機会があれば聞いてみたい。 | | |